

# とり村回覧板

Vol.  
20  
2016年7月号

認定NPO法人TSUBASA  
「人・鳥・社会の幸せのために」  
tel.048-480-6077  
www.tsubasa.ne.jp  
埼玉県新座市中野2-2-22

## オオちゃんの 里親さん 募集中

TSUBASAでは  
さまざまな理由  
で引き取られた  
鳥たちのため  
に、新しい家族  
を探す里親制度  
を設けています。  
詳しくは、公式HP:  
www.tsubasa.ne.jp  
または里親会のページ:  
www.tsubasa.ne.jp/  
foster-bird/をご覧ください。



## 【オオちゃん】

@オオホンセイインコ

顔は強面ではありませんが、臆病な性格の持ち主です。急に近づいたり、物音がすると飛び回ってすることがあります。その際、窓や壁に激突してしまうこともしばしば…。

寡黙で臆病な子ではありますが、唯一破壊活動をしている時は、とても楽しそうな表情をします。

## TSUBASA

「The Society for **U**nity with **B**irds - **A**doption and **S**anctuary in **A**sia」  
(鳥と調和のとれる社会 - アジアの里親とサンクチュアリ)

## TSUBASAは「人・鳥・社会の幸せのために」を理念に レスキュー活動をする団体です

TSUBASAは、インコ・オウム・フィンチと暮らす全ての方、  
そして動物愛護に関心をお持ちの方に対して、より良いバードライフのご提案と  
適正な飼育のための啓発活動を行っております。

また、様々な理由により手放されてしまった鳥たちを引き取り(里子制度)、  
新しい飼い主さんを探す(里親制度)活動を行っております。

## 回覧板を設置して くださいませんか？

広く、皆さまに活動を  
知っていただく事を目的とし  
本誌を発行しております。  
回覧板を設置して下さる団体様  
施設様を随時募集しています！



## CONTENTS Vol.20

- 声なき鳥たちのSOSを拾うのはだれ？ …… 1
- ラブ先生が行く！出張講演レポート …… 2
- 手に乗ることは幸せの唯一の道？ …… 3
- ボランティアに参加しませんか …… 5
- 怖がりの鳥さんに信頼してもらうには …… 6
- 『BLA認定講座』受講生募集中！ …… 7



セキセイインコレスキュー

# 声なき鳥たちの SOSを拾うのはだれ？

2件のレスキューが続きましたのでお知らせさせていただきます。  
どちらも、鳥を大事にしていた飼い主さんの意思は届かない状況でのレスキューでした。

実施日	2016年3月
場所	神奈川県横浜市のマンション
飼主	亡くなった高齢女性

レスキュー・1

実施日	2016年3月
場所	埼玉県戸田市の一戸建て
飼主	亡くなった父親から受け継いだご家族

レスキュー・2

## レスキュー・1 内装業者様からのSOS

3月某日、マンションの内装工事に行った業者の方が室内で女性が倒れているのを見つけました。その高齢女性はすでに亡くなっており、事件性のない自然死だということが分かりました。そこまでは、TSUBASAとは一切関係のない事件ですが、その女性の横には布の掛けられた四角い箱があったそうです。それはインコを寝かせるときにかける布でした。中にはセキセイインコが2羽。

業者さんが警察と相談し、TSUBASAを調べてSOSを出したことでこの鳥達の命は繋がりました。

鳥カゴを綺麗な移動用ケースに移し、TSUBASAに近い場所まで届ける所まで協力していただきました。縁もゆかりもないインコだったと思いますが、「このままにするのはかわいそうで見てられない」とそう言って協力していただきました。

無事、TSUBASAで引き受けた2羽のインコは今では元気に施設で暮らしています。



## レスキュー・2 地盤工事業業者様からのSOS

ほぼ同じくして、もう一軒の引き取り依頼が入りました。こちらやはり、飼い主ではなく工事の業者の方からでした。なんでも、改築をするにあたり地盤調査に入ったお家に大きな鳥籠があったそうです。飼い主に「鳥はどうするんですか」と尋ねたところ、外に逃がすという回答を受け、慌ててTSUBASAに連絡したそうです。

飼い主には飼い続ける意思は一切なく、このレスキューは工事業者さん立会いの下行われました(飼い主了承済)。

10羽一まとめで飼われていたセキセイインコでした。1年前に、インコを大事にしていたおじい様が亡くなられ受け継いだご家族は、鳥への関心がなかったそうです。

この工事業者さんが動物好きではなかったらどうなっていたでしょう？おそらく誰にも、知られることなく屋外に放されていたことは間違いありません。

工事業者さんがぼつりと「飼い主を選べないから動物はかわいそうだよなあ」と、言っていたのが印象的でした。

現在、10羽は屋外飼育によるものと思われる寄生虫による病気とメガバクテリアの治療を続けています(2016年6月現在)。



レスキュー当時、カイセン症というダニによる病気で顔にコブがありました。今はきれいになりました。

### 命をつなぐために

偶然ですが、二件とも鳥を大事にしていた飼い主さんの意思は届かない状況でのレスキューでした。第三者である業者の方がいい人だったという幸運によって救われた命です。逆に言うと、そういう方がいなかったらどうなっていたかわかりません。途絶えることなく、警察に届く迷子のインコ情報などは手違いで逃がしてしまったわけではなく、意図的に外に放っている可能性も十分にあります。

飼い主を選べない鳥たちのために、何ができるのかを考えさせられる出来事でした。



最近TSUBASAでは、動物の専門学校や  
大学等で講演をさせていただく機会が  
増えてきました。

ある日の、私と愛鳥ラブ@タイハクオウムの  
講義の様子をお伝えします。



## 出張講演レポート

# ラブ先生が行く!

NPO法人TSUBASA 理事 望月健人

最近TSUBASAでは、  
動物の専門学校や大学  
等で講演をさせていただく機会が増えてきました。  
ちまたでは鳥ブームと言われ  
ていることもあり、最近は鳥に携



わる仕事に興味がある学生さんも増えてきているようです。  
しかし、私自身も動物の専門学校出身で体感していることですが、  
学校での授業では鳥のことについてガッツリと教えられているわけ  
ではありません。そんな彼らに現場の声を伝えることは、とても重要なこと  
です。

講演では、TSUBASAの活動を始め、最近の鳥業界事情など  
をお話しています。

感情豊かな生き物という反面、賢さゆえの飼育の難しさや、長  
寿な生き物ゆえに手放される現状があることなど、授業では  
中々学べないような事を伝えるよう心掛けています。

講演には、私の愛鳥のラブ@タイハクオウムも連れて行きます。



ラブ自身、人が大好きな性格というのもあり、  
人が多い環境でも物怖じせず、むしろ学  
生さんに可愛がってもらって満足するほどで  
す。学生さんも、鳥がいるのといないのでは、  
反応が全然違うので、ラブの存在に大変助  
かっています。

ラブを連れて行くのは、何もマスコット的な意味だけではありま  
せん。クリックートレーニングなどを実演することで、より授業  
が分かりやすくなります。



私自身ラブから教わることも多く、まさに体を張って教えてくれ  
る先生です。

学生さんに授業を行うことは、鳥業界を良くすることに繋がると  
信じています。

今後も未来の動物業界を担う彼らに、少しでも鳥についての知識  
や魅力を伝えるお手伝いができればと思っています。



### ラブのプロフィール

ラブ@タイハクオウム(♀)2001年3月23日生まれ  
2007年にTSUBASAに引き取られる。その後、2013  
年に縁があって望月家へ。望月と共に、動物の専門学校  
や大学等へ出張しています。人が大好きで甘えん坊な  
性格。それゆえに、発情が強いのが玉に瑕です。最近  
はクリックートレーニングを頑張っています。



# 手に乗ることは、 幸せの唯一の道？

里親さんからの手紙  
まり、ロー & チビキミ



TSUBASAの鳥はヒナではありません。里親になることを考えた時、成鳥をお迎えしても慣れてくれるのか、不安に思われる方も多いかと思います。しかも手乗りではない仲良くなれるかどうかわからない鳥を迎えるのはとても勇気がいることです。今回は、TSUBASAから「手乗りではない鳥」を迎えてくださった方からのメッセージをご紹介します。

TSUBASAの里親になるならできれば「手乗り鳥の里親になりたい」といわれることはとても多いです。けっしてその要望が自分本意なわけではなく、TSUBASAの鳥はヒナではないので成鳥から慣れてくれるか、ただでさえ不安な中、その上仲良くなれるかわからない鳥を迎えるのはとても勇気のいることだと思います。

皆さまの思う「手乗り鳥」は、自分の意思で手に乗って人のそばにいたことが好きな鳥というイメージかもしれません。人とのかわり方を知らない鳥だと、里親になっても幸せにできるか不安だからという理由で、手乗りではない鳥は敬遠されてしまうでしょう。

ただ、実際問題としてTSUBASAには、手乗りではない小さな鳥たちはとても多いです。できることであれば、等しく全ての鳥たちに家族を見つけてあげたいのが本心です。

埼玉県朝霞市在住の橋本と申します。これまでにTSUBASAから3羽のセキセイインコをお迎えしています。

いずれもお迎え当時は手乗りではありませんでしたが、それぞれに伸び伸びと家庭生活を過ごしています。

早速ですが3羽をご紹介します。

## 「まり」

SKS47(千葉県某所に遺棄されていたセキセイインコ47羽のレスキュー)の里親会で出会いました。他の子たちがヒトに寄ってきたりトリどうして鳴き交わしたりと賑やかな中、彼女の穏やかでマイペースな佇まいが印象に残っています。もちろん荒鳥出身ですので、我が家にきてからしばらくは身を竦ませて固まっている姿が目立ちました。が、大好きな粟穂につられてヒトとの距離が少しずつ縮まり、1ヶ月後には手に乗って粟穂を食べてくれるようになりました。この写真にはとり村スタッフの皆様の方が驚いてくださったようです。その後も、懐いてくれたとはいえ、なかなかの緊張やさんだったのですが、とり村卒業鳥の同窓会で



SKS出身のお友達に会って以来、家庭での表情も大変明るくなりました。同鳥会やバードランを積極的に活用しよう、と思うきっかけになった出来事でした。

## 「ロー」

やはりSKS47出身です。長年とり村の看板鳥として、みらくる日記等にもよく登場していました。なずなちゃんに追いかけてまわされていた姿をご存じの方も多いかと思います。

彼女とは通常の里親会での出会いです。保温室でカゴに入っていながらも、しっかりとこちらを見上げてきた瞳の力、芯の強そうな表情に心を惹かれました。身体が小さく持病もあったため、里親募集対象鳥ではありませんでしたが、通院・投薬も込みでお世話する旨をご相談のうえ、お迎えいたしました。

家庭に入ってからローは意外と気が強く、気に入らないことがあるとカゴを嘴で弾いたり天井を逆さに走り回ったりして激しく自己主張。絶対に手には乗らない頑固なトリではありますが、

### SKS47とは…?

2010年に千葉県の動物園の前にセキセイインコが遺棄され、それをTSUBASAが保護しました。その時の47羽の総称です。





現金なことにオヤツだけは手から食べてくれるようになり、放鳥に慣れるとこんなに可愛い表情を見せてくれるようになりました。手には慣れなくても、家庭の一員として心を開いてくれたんだと心底嬉しくなった写真です。

### 「チビキミ」

佐倉飼育放棄のレスキュー出身です。里親会には珍しく男の子のセキセイで、健康上の問題もない子なのに、レスキューから2年もお声掛けがなかったことに私たちの方が驚きました。確かに愛想のあるタイプではなく、面会のときもお迎えの前後も、私たちを無視してとにかく餌箱に向かっているかブランコに話しかけてばかりの子でした。

いざ家族になってみると、どうもその図太さは寂しさの裏返しだったように感じています。お迎えの翌月には手に乗って粟穂を食べるようになったところか、3ヵ月後には出せ出せコールを連発。現在ではヒトの顔を見ればおやつをせがみ、扉を開ければカゴから飛び出して肩に飛び乗ってきたり、手にまわりついてきたり、膝の上で居眠りまでする始末です。

こうして3羽のセキセイインコをお迎えして感じましたが、「荒鳥」といってもそれぞれにまったく個性が違いますし、家庭での過ごし方も三者三様です。

性格の違いが現れるのは手乗りのトリさんとなら変わりはあり

#### 佐倉飼育放棄とは…?

佐倉市で家主のいない家の前に、様々な品種の鳥が遺棄されており、それを地域住民の協力で一斉レスキューをしたことの総称です。

ませんし、お迎え後の過ごし方によって家庭での振る舞いが変わるのも、また手乗りと同じことです。

小型鳥のため手に乗ることがコンパニオンとしての必須条件ではない、ということも幸いしていると思います。

また、荒とはいえ、TSUBASAにいるトリは必ず一度人間と暮らしたトリです。彼ら自身の生活の中にヒトがいるのは、彼らにとっても自然なことですので、まったくの野生のトリを飼育する印象とは全然異なります。

この記事をお読みの皆さまには、手乗りじゃないと仲良くなれない(楽しく暮らせない、幸せにできない)と心配されている方も多いかと思いますが、決してそうではないという実例をお知らせできたのであればとても嬉しいですし、手乗りではないトリさんをお迎え候補にしてくださる方がひとりでも増えてくださればこれ以上の喜びはありません。

最後になりますが、まり、ロー、チビキミ、我が家に来てくれた3羽のセキセイたちに心から感謝しています。

レスキュー出身という辛い経験にもめげず、我が家で家庭の一員として明るく振舞ってくれることに、ヒトも本当に励まされています。これからも、どうぞよろしくね。



TSUBASAでは、鳥達が手を嫌にならないように手で追いかけることを極力避けるようにしたり、手に乗れなくても体重を捕まえずに測れる取り組みを行っています。

手に乗れる子もそうでない子も、皆魅力的な個性を持っています。彼ら、一羽一羽の縁を繋いでいく努力をこれからも怠らずにお世話をしていきたいと思っています。

皆さまにも、「触れる」「手に乗れる」以外の鳥たちの魅力にも目を向けていただけますと嬉しいです。

#### TSUBASAの里親会: MTB ~Meet The Bird~

2016年の開催日:

10月23日(日) / 11月27日(日)



# ボランティアに参加しませんか？

TSUBASAでは現在、約130羽(2016年6月現在)の鳥たちが暮らしており、毎日の鳥たちのお世話にボランティアの方々のご協力は欠かせません。機会がありましたら、皆さまもボランティアへ参加していただけますと幸いです。鳥たちがきっと、喜んで迎えてくれると思います。



鳥たちのお世話はかなりの重労働です。にも関わらず、毎週のようにボランティアに参加して下さる方もおります。TSUBASAはこのような献身的なボランティアさんのおかげで、鳥たちの心と身体が守られています。この紙面をお借りして、心から御礼を申し上げます。

## こんな作業をお願いしています

- 鳥たちのケージや施設内の掃除
- 鳥たちへの給餌
- 鳥たちのおもちゃ作り

※鳥の羽数が多く、重たいものを持ちたり、水仕事だったりと作業はとてもハードですが、普段ケージの外に出ている鳥たちとは違った姿を見ることが出来ます。

## 作業時間は体力・都合に合わせて

体力に自信がなくて心配という方や、申し込みにくいという方向けに、基本コースを作りましたので、目安にしてください。また、午前中のボランティアさんが不足していますのでよろしく願いいたします。

1. 一日コース 9:00~16:00頃  
TSUBASAの一日の流れを見たい方にオススメ
2. 前半コース 9:00~12:00頃  
主に寝室のお掃除
3. 後半コース 13:00~16:00頃  
お水換えや、床掃除など

▶送迎をご希望の方は、柳瀬川駅までお迎えに伺いますのでご連絡ください。

## 用意していただきたいものは

- 作業着(濡れたり、汚れても大丈夫なもの)
- 靴下(長靴で作業を行うため)
- 長靴(お貸しできます)
- 昼食(昼休みに近くで購入もできます)
- 鳥さんが大好きな気持ち!

## 参加前に保険に入ってください

これは、日本国内におけるボランティア活動中におこる様々な事故に対する備えとして、無償で活動するボランティアの方々を補償する保険です。詳しくはホームページをご参照ください。



## 鳥と人の安全のために、守っていただきたいこと

ボランティア様へお願い  
(2016年4月更新)



- 服装は長ズボンと袖のある服装をお願いします。※夏場は半袖でも構いません。
- キャンセルの時は必ずご連絡ください。
- 鳥たちへの差し入れは事前にご相談ください。
- バックヤードへの立ち入りは、ボランティアの時のみにしてください。
- 写真撮影は禁止です。※スタッフ・理事・プロボラ等は記録のため撮影をしていますが、ご理解ください。
- 許可なく鳥をケージから出さないでください。※鳥によっては、スタッフから個別に放鳥をお願いする場合があります。
- 中学生以下のご参加は、保護者同伴をお願いします。
- 香水やマニキュアはご遠慮ください。

## 鳥たちのお世話のお手伝いボランティアさん 随時募集中!



お申し込み・  
詳しい内容は  
ホームページを  
ご覧ください



<http://www.tsubasa.ne.jp/tsubasa-support/volunteer/>

お電話/メールでのお申し込み

Tel : 048-480-6077 / Mail : volunteer0615tsubasa@gmail.com

お申し込みフォームがご利用できない際は、お電話またはメールでお申し込みが可能です。ただし、双方の確認ができるよう、可能な限りメールでのお申し込みをお願いいたします。

メールでお申し込みの際は以下の事項をご記入ください。

- ①参加者のお名前 ②住所 ③ボランティア希望日・時間 ④柳瀬川駅からの送迎ご希望の有無  
※参加人数に限りがあるため、ご希望の日に添えない場合があります。あらかじめご了承ください。



# 怖がりの鳥さんに 信頼してもらうには？



## ゴン太君との関わり

他人が苦手で噛んでしまうというオオハネナガインコに信頼してもらうまでのお話です。

寄稿 ALETTA 石綿美香先生



**ゴン太君との出会い**▶ゴン太君と出会ったのは昨年5月15日。我が家のシロハラインコオレオが生まれた家の子なので、ヒナだったオレオに最初に面会に行った時の事です。丸っこい体に大きな頭とくちばしが特徴的でした。まったりしたしぐさも可愛くて、つい触れたいくなる風貌です。ところが飼い主さんに聞くと「他人が苦手。噛むので気をつけて」。近づきすぎると猛スピードで突進して噛むらしい。

**冒険は危険**▶「うーん、かわいい。いつかさわりたい」とゴン太君を眺めながら、私は下心でいっぱいでした。しかし隙を見て一か八か触ってみようという冒険は一切しませんでした。▶はたから見てみると、用心深すぎる接し方だと思われるかもしれませんが、「噛む」という経験は繰り返すほど、頻度も強度もアップしていきます。つまりより強くすぐに噛むようになるのです。すでに他人に触られる事が苦手なのがわかっているのですから危険な(私が噛まれてけがをするという意味ではなくゴン太君の嫌な経験がひとつ増えるという意味の)チャレンジはしません。▶噛むことの、もっとも大きな理由のひとつは恐怖や不安と言われています。したがって相手にいかに安心感を与えられるかが、関係を築く際の鍵となります。▶ではどうするか？ひたすら待ちます。「待つ」事は関係づくりの最良の方法かと思います。▶しかしただ待っているだけでは、距離は縮まりません。待ち方に工夫が必要になります。

**ボディサインに気をつける**▶最初はゴン太君が反応しない距離に存在するだけ。▶ゴン太君でいえばおなかプルプルしないくらいの距離です。怒っている時にそうなると、飼い主さんからききました。飼い主さんまたはその鳥をよく知る人に、怒っている時や噛む前のボディサインを聞いておくと、自分の行動が相手を追いつめていないかを知る目安になります。▶最初は顔を近づけたり手を伸ばしたりなど積極的な働きかけはしませんでした。それでも当然ですが警戒されています。私がちょっと動けば体を固くするし、移動して距離を開けようとします。動きによっては口を少し開いたりもしていました。

**ご褒美をご褒美にするために**▶2度目が3度目の訪問で、放鳥中のゴン太君に豆苗をあげに行くという一歩進んだかわり方をしてみました。止まり木にいるゴン太君に豆苗をあげるのですが、この良い点は手(私の体)と豆苗を食べるゴン太君の口までに距離がかなりあることです。他人が苦手な子に手から食べるものをあげるのは、手という恐怖と好きな食べ物が欲しいという気持ちの間で葛藤がおきる可能性があります。▶豆苗をあげる時も最初は手を思いつきりばし目線を少しそらし真正面から向き合わないようにしました。声かけは小さな落ち着いた声でした。声かけが安心させる効果があるかどうかは、鳥によって異なります。▶声かけをする事自体にとっての良い点は、呼吸ができることです。言葉を発するのには声を出すとは自然と息を吸います。呼吸のつまった状態は緊張を生み出すので、そして鳥たちはその緊張を見抜きますから、呼吸大事です。▶こうして徐々に私はゴン太君に危害を加える人間ではないということを理解してもらおうとしました。安心感の積み重ね作業です。

**ゴン太君からのアプローチ**▶そのうちゴン太君の行動に変化が見られました。▶それまで私が訪問している時、放鳥時は私から遠く離れた止まり木にいたのに、ある時そこから私が座っている椅子のあるほうへ近寄ってきました。▶これこそ私が待ち望んでいた行動の第一歩。自分から私(または私のいるほう)へ近寄ってきてくれる事。▶寄ってきてくれることに対しては強化子となるであろうものを提供します。やさしく声をかける、好きな豆苗をあげるなど。

**安心を積み重ねるために**▶そんなころ、飼い主さんからのおすすめもあり、放鳥のためケージから出すという事もしました。▶ケージというプライベートスペースに手を入れるわけですから、ある程度安心できる相手でないとなかなか受け入れてもらいにくいと思います。

▶キュー(合図)と一緒にというのは動物にとっては安心感になるので、飼い主さんがするのと同じ手の出し方を学び同じようにした結果、落ち着いて手に乗って出てきてくれました。最

初に出てきたときは、たしかケージの扉をくぐって表に出たら慌てたようにいつもの止まり木に移動していきました。ゴン太君も緊張していたんだと思います。▶飼い主さんが頭をカキカキしている時に、そっと手を添えてそこに参加し、その後飼い主さんは離れ私単独になったことにゴン太君が気付いてもカキカキさせてくれました。こんな風にしながら徐々に距離が縮まってきたようです。▶その後の訪問では、自ら近くにやってきたゴン太君と一緒にトレーニングをさせてもらいました。▶手から直接のごほうびも優しく取れます。体の接触がある「握手」をお願いしたところ、それもきちんとしてくれました。▶トレーニングが他人との信頼関係づくりに役立つのは、同じキュー(行動のきっかけとなる合図)を出す事により、その結果起こることが予想できる、つまりルールを信頼してくれているので、そこからそれを使う人間も信頼してくれるという事が可能になります。

**ついに接触**▶つい前回のこと、ゴン太君が退屈そうにしていたので、ケージの前に移動し椅子に座りました。そこでひたすらソフトなトーンで声をかけながら、ケージ手前でカキカキの手の動き(ゴン太君にとってはキューとなる)を試みました。エアカキカキ。▶数分するとゴン太君が頭をクネクネさせてかいてもらいたそうなきさを始めたのです。▶それでも手はケージの隙間にいれずケージ前でエアカキカキを続けました。すると私の前にやってきてケージに頭を押し付けてきました。これははっきりした「さわっていいよ」のサインです。ここでやっと深くゆっくり息を吐きながら手をケージ越しにいれてカキカキしました。▶まどろっこしいようでも信頼してもらうには、このように相手が受け入れてくれやすい環境を整えながら、相手のペースで距離を縮めていくのが、長い目で見ると双方にとって良い結果になると思います。

ALETTA 代表 石綿美香

IAABC公認インコ・オウム行動コンサルタント(certified parrot behavior consultant) 動物の行動コンサルティングやセミナー。またはそれに関わる通訳/翻訳。オカメインコ、ボタンインコ、シロハラインコと暮らす。



もっと  
鳥のことを

知りたい



学びたい

研究  
したい

## 『バードライフアドバイザー（BLA）認定講座』受講生募集中！

### 医療、行動学、鳥との暮らしの考え方などを、幅広く学びます！

バードライフアドバイザーは鳥（フィンチ、インコ、オウム）に限定した認定講座です。鳥の医療や行動学はもちろん、「人と鳥」・「人と人」とのコミュニケーション、社会科学等、様々なスペシャリストの講師陣と共に、「人、鳥、社会の幸せのために」何が出来るか、一緒に勉強していきましょう。

バードライフアドバイザーは  
それぞれの級に応じた  
コンセプトを元に、  
鳥のことだけではなく、  
個人でできることや、社会に  
働きかける方法を考えます。

### 3級

#### 鳥と私が 幸せになる

ご自分の鳥さんの健康を守り  
人も鳥も  
幸せになるために

### 2級

#### 鳥と私と貴方が 幸せになる

身近な友人や知り合いが  
悩んでいたら、一緒に解決し  
幸せになるために

### 1級

#### 鳥と私と貴方と 社会が幸せになる

1羽でも多くの鳥たちの  
尊い命を救い、社会全体が  
幸せになるために

開講予定日 **3級** 10/16(日)：大阪 10/23(日)：名古屋(愛知県)

お申し込み および バードライフアドバイザーの詳しい情報はこちらから

TSUBASA BLA

検索

<http://www.tsubasa.ne.jp/study/bla/>



里親会

### 『Meet The Bird』

- 8月28日(日)
- 9月25日(日)
- 10月23日(日)
- 11月27日(日)



最新情報は  
TSUBASA  
イベントページで！  
[www.tsubasa.ne.jp](http://www.tsubasa.ne.jp)

### 講座

「シェルターバードトレーニング」 ●8月6日(土)

愛鳥塾「鳥と登録」 ●8月14日(日)

愛鳥塾「鳥と暮らすための基礎」 ●9月11日(日)

社会化セミナー

「愛鳥とのより深いコミュニケーションのために2」 ●10月22日(土)

ALETTA主催「鳥さんの噛みつきについて」 ●11月13日(日)

### バードラン

「初めてのバードランデビュー会」 ●9月10日(土)

クリスマス企画「鳥さんといっしょのゲーム大会」 ●12月4日(日)

※イベントの日時・内容などは変更される場合があります。詳しくはHPをご覧ください。お問い合わせください。

ぜひご参加ください！

## 2016年の EVENT



**土日祝 定期便運行!** 13:00 14:00 15:00

【営業時間 土日祝】1F：店舗・バードラン 13:00～17:00 / 2F：鳥たちを見られる空間 13:00～16:00

【アクセス】埼玉県新座市中野2-2-22 / 東武東上線「柳瀬川駅」から徒歩約25分

【Tel】048-480-6077 【Fax】048-480-6078 【e-mail】tsubasa0615@gmail.com

【発行元】

認定NPO法人 TSUBASA  
松本壯志 / 涌井智美 / 望月健人

【発行】2016年7月

次回発行は1月予定です。

誌面の情報は発行日現在のものです。  
情報に変更が生じる場合がございますので  
なにとぞご了承ください。